

Advanced Engineer

高専 専攻科

課題発見・解決型の
実践技術者を育成

Innovation

Leadership

Communication Skill

Project Management

Global Mind



KOSEN
国立高等専門学校機構



Interview

be en

社会人としての基礎力を磨き、目標へのアプローチ

セイコーエプソン株式会社 プリンター事業部 プリンター CS 品質保証部
熊山彩子さん (2012年 国立釧路高専 専攻科 電子情報システム工学専攻修了)

プリンター、液晶プロジェクター、ウォッチ、産業用ロボットなど幅広い製品を世に送り出しているセイコーエプソン。プリンター CS 品質保証部に配属されて約一年。明るく快活な熊山彩子さんに高専時代と仕事について伺いました。

●入社を決めた理由と仕事内容について

以前から、人と人のコミュニケーション伝達に使用する製品づくりに携わりたいと考えていました。また、母校の先輩方から、女性にも働きやすい職場だと聞いて身近に感じていたのも弊社を選んだ大きな理由です。

現在は、商品が市場に出た後に、お客様のところで起きた困り事に関する事実関係を確認し、それを設計や技術部門にフィードバックして

お客様の困り事を解決するとともに、新製品開発に役立てるという仕事に携わっています。半年間の研修を経て、年末にはプリンターの販売実習を体験しました。学生時代のアルバイトでの販売体験とは違い、実習課題を与えられた中で自社製品に対してお客様が感じていることなど、新しい発見や気づきが得られ、今後の業務に生きる有意義な経験をすることができました。

このような体験を通して、技術職の仕事に誇りとおもしろさを感じていますし、得られたことをこれからも活かしていきたいですね。

●高専での7年間を振り返って

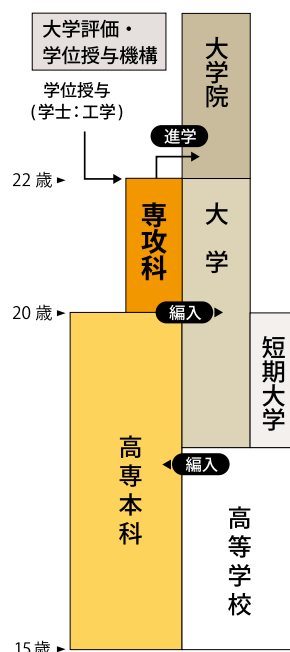
高専に入学後、トランポリン同好会を結成して、北海道大会・全国大会に出場しました。

[高専専攻科の特色]

プラス2年、7年間の修学で 「高専専攻科」ならではの高度化を実現。

高専「専攻科」は、高専（高等専門学校）を卒業した学生を対象に、より専門的で高度な複合的・融合的カリキュラムを通じて、従来の専門分野を超えた技術者の育成を目指します。

- 技術者としての創造的実践性の重視
- 産業界との密接な連携（共同教育・COOP教育）
- 国際的な大学教育水準のカリキュラムの達成（JABEE）
- グローバルマインドの育成



gineer!

手法を学んだ専攻科。

本科卒業後は大学編入も選択肢にありましたが、高専は先生方との距離が近いことや、勉強も部活動も自分次第で時間を有効に使うことができるので専攻科に進みました。専攻科での研究は、本科の卒業研究で取り組んだトランポリンの技の画像解析を発展させ、競技としての記録を伸ばせるよう、動作解析手法を取り入れ、運動の最適数値化などを行いました。

専攻科では研究に際して、自ら目標を設定して計画的に仕事を進めなければ成果を出せません。その2年間のおかげで、会社に入ってから目の前の課題をどうやって進めていけばよいのか、上司に相談しながら手順を踏むことで、迷わずにすむことも多いように思います。

もの怖じしないのが、専攻科修了者の特徴でしょうか。

セイコーエプソン株式会社 プリンター事業部
プリンター CS 品質保証部 課長 浅水 孝修 様

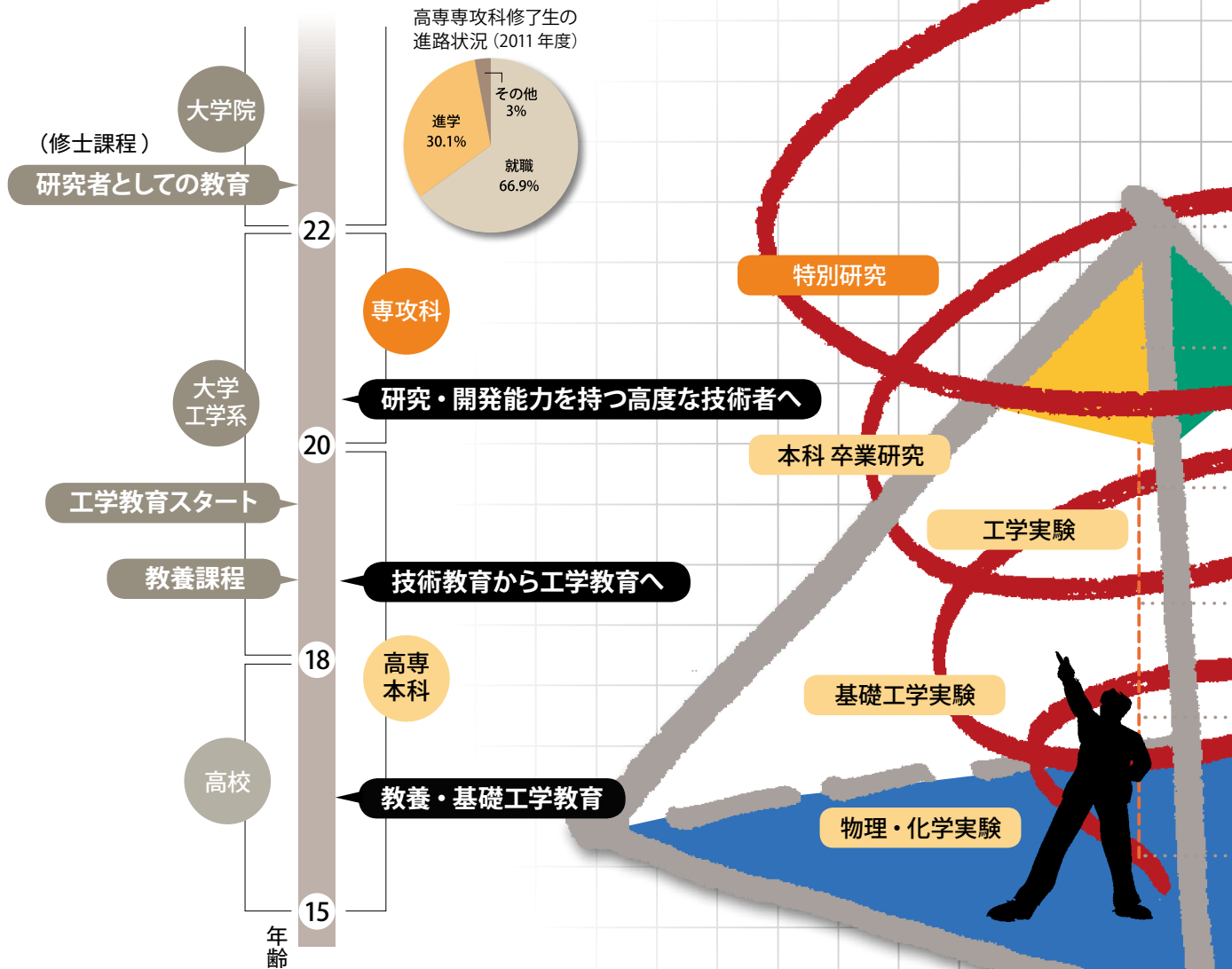
職場には大学卒、大学院修了者が多い中、昨春、2名の専攻科修了者が私たちのチームに配属されました。品質保証という仕事は新製品に繋げる幅広い知識と技術力だけでなく、ものを見たり、触りながら思考する力が要求されます。多くの経験の中から仮説を立て、推測するチカラも養って欲しいと、プリンターの販売実習を体験してもらいました。



販売実習後には、報告会での発表と社内向けサイトに報告書を掲載するのが慣例です。熊山さんはユニークな視点から報告書を作成して、社内から高い評価を受けました。また、彼女が配属されてから職場の雰囲気ガラッと変わりました。明るい朝の挨拶が皆の意識を変えたのですが、高専では大きな声で挨拶することが、当たり前のこととお聞きました。今後、専攻科＝熊山さんという評価がついて回りますので、お客さまをつなぐ窓口としての役割を後輩たちに繋いで欲しいと期待しています。

高専本科で培った専門性に、 研究・開発に不可欠な複合的・融合的学修を積み重ねる 「高専専攻科」—エンジニア育成教育の理想型です。

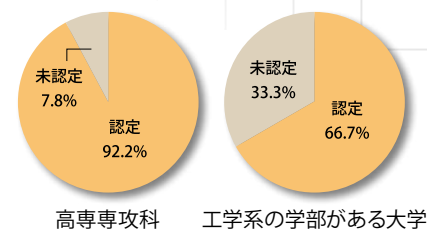
「高校+大学」と「高専+専攻科」の比較



日本技術者教育認定機構 JABEE への取り組み

JABEE (Japan Accreditation Board for Engineering Education) は、技術者教育プログラムの審査・認定を行う非政府団体です。加盟国の認定プログラムは、相互に実質的同等性を有するものとし、JABEE 認定を受けた教育プログラムの修了者は、公益社団法人 日本技術士会に登録することにより「技術士補」の国家資格を得られます。グラフに示すように、ほとんどの高専専攻科の教育プログラムは、JABEE 認定を受けており、専攻科修了生には近い将来に「技術士」となる道が開かれています。

JABEE 認定の割合 (2011年度、高専機構調べ)



専門技術者としての成長

専門技術者の成長は専攻科のピラミッドの高さに例えられます。高専教育を軸に、側面の3つの教育手法を融合的に学修・体得しながら、レベルを高めていきます。

学生が「何をどこまでできるようになったか」により、学生の「到達レベル」を判断します。

創造的デザイン演習

↑ 創造レベル

全体を組織化するために要素を組み立てたり、新たに構成できる（生み出す、計画・設計、作り出す）。

複合融合実験実習

↑ 分析レベル

複雑な課題に対して、要素がどう関連しあっているか識別、焦点化、組織化（統合・要点の整理・構造化）できる。原因を考えられる。

総合デザイン演習

↑ 評価レベル

基準や規範に基づいて判断できる（調整する、発見する、観察する、検証する、批評・判断する）。

ものづくり演習

↑ 適用レベル

応用的な事例や問題の解決に知識・理論・情報を利用できる（遂行する、実践する）。

↑ 理解レベル

重要な概念や方法の意味を理解し、必要に応じて活用できる（解釈する、例証する、要約する、推測する、比較する）。

↑ 知識・記憶レベル

思い出すことができる（認識する、関連のある知識を思い起こす）。

『改訂版ブルーム・タクソミー』より

Advanced Curriculum

高専「専攻科」では、本科で学んだ基礎的な工学の専門分野を深めると同時に、関連した専門分野へ対応能力を広げます。さらに高専本科での「卒業研究」をより深める2年間の「特別研究」があります。足かけ7年間の工学教育の総仕上げとも言える「専攻科」は、エンジニア育成教育の理想型の一つです。

教育成果事例①

ロボカップ



入賞ロボットと受賞トロフィー・賞状

ロボカップは、ラジコンのような人の操作によって動くロボットではなく、自分で考えて動く自律移動型ロボットによる競技会です。それは、人工知能やロボット工学の研究を推進し様々な分野の基礎技術として波及させることを目的とした、ランドマークプロジェクトでもあります。ロボカップは毎年、世界大会が開催され、40か国以上から選手（ロボット）が集まりました。

2012年は、メキシコのメキシコ・シティーで開催され、世界の大学など多数の出場チームがその技術力を競いました。日本の高専からは豊田高専チームが小型機リーグに出場し3位入賞しました。例年、高専チームが入賞しており、チーム力と技術力の高さを誇っています。

教育成果事例②

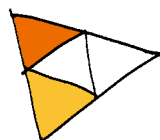
学生のテクノロジー・オリンピック「イマジンカップ」



Imagine Cup（イマジンカップ）は、マイクロソフトが主催する学生のためのIT競技会であり、全世界から、テクノロジーを使って今日の世界に変化を起こしたいという情熱、想像力をもった学生が集まります。また、学生だけではなく、メンターとして参加する教職員も大きな役割を担っています。

第10回となる2012年の大会には、全世界35万人以上の予選参加者から選抜された350人（75カ国、105チーム）の学生が参加しました。日本からは、ソフトウェアデザイン部門に、日本大会で優勝した東京高専のチームが参加し、日本からの参加者として、過去最高となる世界第2位の栄冠に輝きました。

時代の要請に応え、社会と融合したカリキュラムを
工学教育と実務体験を通して、総合力を身につけた
課題発見・解決型技術者を育成しています。



製品開発の可能性の探査から生産開始に 至る、すべてのデザイン活動 エンジニアリングデザイン教育

専攻科では、エンジニアリングデザイン教育 (Engineering Design Education) を実施しています。これは課題発見から議論、提案、発展、解決のプロセスを重視する教育です。実際のプロジェクト遂行 (PBL 教育) を踏まえ、設計や製造に限らず、工程管理、予算管理などを実施し、これらの成果報告を行うことで実践力を養います。

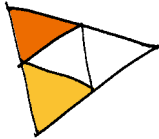
高専機構では、各校が実践しているエンジニアリングデザイン教育の事例集を刊行しています。

http://www.kosen-k.go.jp/joho_kouhou.html#engineeringdesign



函館高専では、退職技術者の協力を得て、エンジニアリングデザイン教育を実施

Advanced Engineer

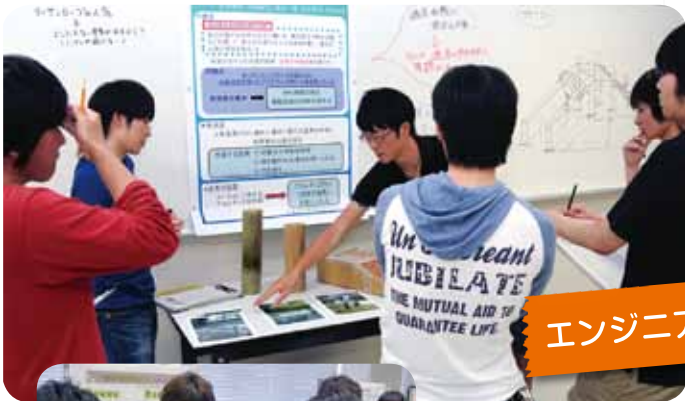


学校で学んだ知識を実践力へ昇華させる“on the Job Training” 共同教育・COOP 教育

企業における長期就業経験と、高専での講義を交互に繰り返すCOOP 教育を実施しています。講義で得た知識・理論を就業実践をとおして確認する中で、問題解決能力の向上を図っています。

実際に現場で企業人から指導を受け、就業と学習の結びつきを確認し、高い目的意識を持った学習を重ねつつ現場の問題に取り組み、高度なものづくり能力をスパイラル的に育成します。

富山高専では、地域と協働して問題を発見し、それを解決するものづくり教育を実施しています。

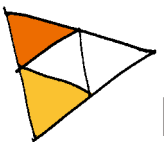


エンジニアリングデザイン能力

▲問題を把握し計画を決定



▲製作、改良の検討から完成へ



専門性に応じた実践力・総合的な人間力を身につける、問題に基づいた学習 Problem Based Learning

PBL (Problem/Project Based Learning) は、グループによる課題解決型学習の教育手法で、学生が、問題解決とプロジェクト遂行能力を身につけるのに最適です。

例えば、エンジニアリングデザイン能力を育成するため、函館高専では退職技術者(マイスター)にアドバイスを受けながら課題を技術力で解決する「創造実験」のカリキュラムがあります。熊本高専では、グローバル教育・キャリア教育を視野に海外の連携協定校の学生と高専の学生がチームを組んで技術課題の解決を行うPBLに取り組んでいます。

この他、国立高専専攻科ではPBL手法を活用したさまざまな教育を実践しており、専攻科修了生は高い評価を得ています。

Innovation

- ・専門的能力
- ・創成能力
- ・課題発見能力
- ・合意形成能力

Project Management

- ・コミュニケーションスキル
- ・未来志向性
- ・キャリアデザイン力
- ・技術者倫理

社会

Leadership

Upskilling Program

この展開図は、高専 + 専攻科において、異なる環境で培われる学修体験をバランス良く身につける学修システムのイメージを表現しています。

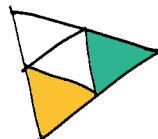
グローバルマインド

- ・国際通用性
- ・グローバリゼーション理解
- ・異文化多文化理解

Global Mind

人基礎力

Communication Skill



海外での実務体験を通して 国際人としてのエンジニア感覚を磨く 海外インターンシップ

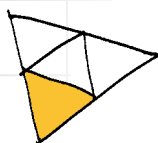
高専機構では、コミュニケーション力や国際性の修得を目的として、全国から選抜された専攻科生を対象として3週間程度の海外インターンシップを実施しています。平成23年度はアメリカ、マレーシア、トルコ、インドネシア、タイ、シンガポール、フィリピン、ベトナムの8カ国、9企業に21名の専攻科生が参加しました。その他、各高専においても独自に海外インターンシップを行っています。



▲ヤマハ発動機株式会社 ベトナム



▲ツネイシホールディングス株式会社 フィリピン

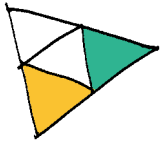


幅広く豊かな人間教育、 技術者教育を目指す キャリア・職業教育

専攻科では、社会で活躍できる資質と能力を備え、高い職業観と意欲を有する人材育成のためのキャリア教育・職業教育を実施しています。高専本科から専攻科までの7年一貫のキャリア教育を実施するとともに、企業で活躍する社会人の再教育（リフレッシュ教育）やレベルアップ、企業との共同研究の場としても活用されています。



釧路高専では、リフレッシュ教育の講座を開設し、職業教育を実践



「持続可能な社会構築への貢献のための
科学技術」に関する国際シンポジウム ISTS
国際通用性の育成

高専機構では、2010年にタイ王国キングモンクット工科大学ラカバン校 (KMITL、King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang) との間で締結された包括学術交流協定、ならびに、2012年に香港職業訓練協議会 (VCT、Vocational Training Council) との間で締結された包括的学術交流協定に基づき、「持続可能な社会構築への貢献のための科学技術」をテーマとして、全国高専の専攻科生やタイ、香港の学生の研究発表を主体としたシンポジウムを開催しています。第1回は2012年1月、第2回は2012年11月に、いずれもタイで開催され、第1回では、全129件の発表のうち、38件が専攻科生によるもの、第2回では、全149件の発表のうち、92件が高専からの参加学生による発表でした。第3回は、2013年に香港で開催の予定です。

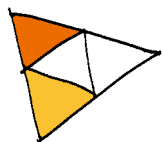
ISTS (International Symposium on Technology for Sustainability)



社会人基礎力に加え、国際性を磨くとともに
自治体や企業とのコラボレーションにより
地域課題の解決に貢献しています。



松江高専では、塩害の懸念される山陰地方などの地域では建設できない耐候性鋼橋梁の建設条件について、調査研究しています。



地域課題の解決・地域貢献
悪天候時に函館山を訪れた観光客を
がっかりさせない

函館高専では、専攻科生が退職技術者のアドバイスを受け、悪天候時でも、函館山からの夜景が楽しめるビューアシテムを開発しました。

晴天時に函館山からの夜景を写真撮影し、それをパノラマにつないだ画像が、眼鏡型のディスプレイに映し出されます。ディスプレイにはジャイロ機能が搭載されており、顔を向けた方向の夜景が眼前に広がります。



函館山ロープウェイ株式会社に納品されたジャイロ機能付ビューアシテム (背景: 展望台レストランイメージ)



五洋建設株式会社は海洋土木最大手（大手マリコン）として知られ、スエズ運河工事など海外でも多くの受注・施工実績がある。

●どのようなお仕事をされていますか

官民間問わず東京港内の土木事業を行う基幹事務所で、17の管轄現場のひとつである東京港廃棄物処分場の延命化工事（処分可能量を増やす為の減容化）の工事責任者として携わっています。この工事には弊社の特許工法が採用されており、特殊な工事として、品質・工程等すべての施工管理が重要な工事です。

これまでの、東北でのトンネル工事や東京都の離島での護岸整備工事など、幾つかの工事での経験が、今の私を作っていると感じています。現場経験が大切な業界の中で、高専本科から入社した同級生が、責任ある立場で頑張っている姿を見て、高専専攻科修了である自分の役割の重要性を感じています。互いに切磋琢磨し「すべての事をいかに密度濃く全うするか」を信念に、今後の業務に繋がっていきたくと考えています。

●会社を選んだ理由は

実家が建設業を営んでいたことから、「ものづ

研究、研究室、高専のリーダーとして、ゴールに向かうプロセスを培った専攻科。

五洋建設株式会社 東京土木支店 有明工事事務所 工事主任
丸岡 弘晃さん（2004年 国立呉高専 専攻科 建設工学専攻修了）

くり」が好きで、社会に出て即戦力になりたいという目標を持って高専・専攻科で学びました。弊社は私の地元である広島が発祥の地。身近で、誇れるものづくりができると思い選びました。ですから、入社後すぐに、現場に出て仕事をするのは、ごく自然なことでした。弊社では、専攻科修了生は私が第1号ということもあり、やりがいと責任感を持って仕事をしています。

●学生時代を振り返って

高専本科の卒業研究で、コンクリート構造物のひび割れを自動に取得・診断するテーマに取

り組んでいました。のめり込む中で、より研究を深めていきたいと思うようになり、継続的に研究が出来る専攻科に進みました。専攻科時代は10数名程の後輩たちの研究支援、コンサル会社との共同研究、近隣社会への支援など、自分の研究以外も積極的に関わっていました。結果的に肝心の自分の研究の方は日中だけでは足りず、ひたすら深夜に没頭するという有様でした。この間に、生産管理や品質管理などの管理業務を円滑に進めるためのPDCAサイクル手法を体験したことが、今の自分の糧となっています。

期待をせずにはいられない人です！ 今後は人脈を築いて行って欲しいですね。

五洋建設株式会社 東京土木支店 有明工事事務所 土木総括所長 日隈 裕史 様

一言で言うなら、『何事からも逃げない人』『物事を前向きに捉えて行動する人』ですね。それは、丸岡君が本来持っている資質に他ならないのですが、専攻科修学時代に培った経験があったからこそ、現在の丸岡君があると思います。丸岡君には、人を惹きつける魅力・束ねる力がある等、学部卒の人と比べても優れている面が沢山ありますので、今後も責任者としての経験を数多く積んでもらい若い世代の模範となって欲しいですね。

10年後、私のような立場になった時には、今、若い世代に示していることが自分の力となって返ってきます。その力を活かせるようになる為にも、今後はこの仕事に限ったことではありませんが、社内外を問わず積極的にコミュニケーションをとり、人脈を拡げていくのも大切なことの一つです。今後の更なる成長に大いに期待するとともに、学生の皆さんも、意識して人脈を拡げていけるような行動・学生生活を送って欲しいと思います。



グローバルなエンジニアを目指し、磨いた英会話力で学会発表を行い、自信を身につけた専攻科。

ABB 株式会社 プロセスオートメーション事業部 金属産業部営業グループ
庄司 裕道さん（2008年 国立富山高専 専攻科 機能材料工学専攻修了、2010年 東工大大学院修了）



ABB 株式会社は、約100カ国に約14.5万人を擁し、電力・オートメーション技術を主軸として世界市場をリードするABBグループの日本法人。国内でも販売、サービスのほか、塗装機などの製造拠点も擁し、事業展開している。

●どのようなお仕事をされていますか

顧客先の製鋼関連機器のカスタムメイドなどの案件に応えるために、海外の工場と連携しながら技術営業をしています。毎日が新鮮でやりがいのある仕事で充実しています。

●会社を選んだ理由は

国内の大手のメーカーも選択肢にありましたが、高専を選んだときからグローバルなエンジニアとして活躍したいという思いで、英会話にも力を入れていたので、世界トップクラスの企業であること、日本の大手一流企業を相手にビジネスに取り組めること、スタッフの皆さんの仕事に取り組むスタイルや考え方、個人を尊重する会社であることに魅力を感じました。

●学生時代を振り返って

本科で学んだ材料工学の研究を続けたいと、ごく自然に機能材料工学専攻に進みました。専攻科では毎日コツコツと積み上げる研究を習慣づけられたことと、将来を見据えて独学でじっくりと英語に磨きをかけられたことが、今に活かされているように思います。

専攻科1年の時に課題発見・解決型プログラムに取り組めたこと、国際学会での発表という貴重な体験ができたことは、その後の自信につ

ながりました。課題発見解決型プログラムでは他学科から進学してきた学生とチームを組み、協力して進めなければならぬので、学ぶ点も多く、お互いに刺激合いました。

学術的に深い世界に触れてみたいと大学院に進学しましたが、大学卒の同期生と比べ、研究に対する姿勢でも優位性を感じました。専攻科で、研究熱心な先生方の指導を受けて実績を積めたことが大きいと感じています。

物事に集中して取り組む姿が印象的で、社内評価も高いですね。

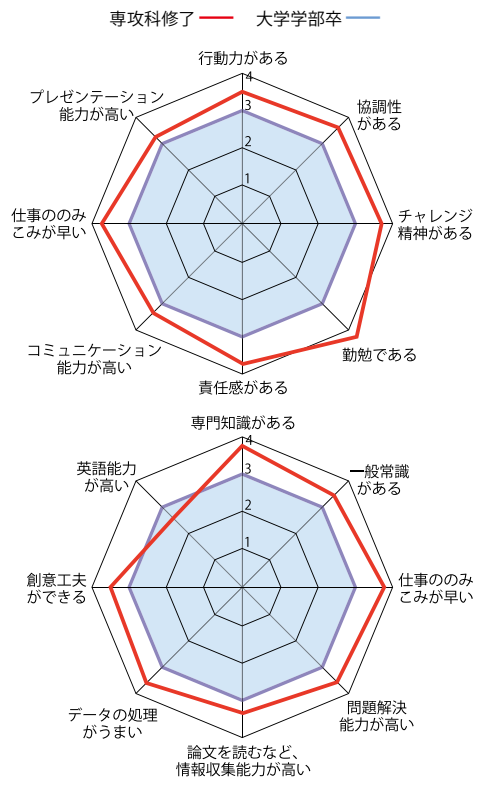
ABB 株式会社 プロセスオートメーション事業部 金属産業部 営業グループ
グループマネージャー 森 章二郎 様

弊社には高専卒業者や専攻科修了者が多数在職しており、現場に出て活躍している高専卒の社員も数多くおります。高専卒業者は一般の大学卒業者と比べても一様にまじめで、物事に集中して取り組む姿が印象的で、社内での評価も高いです。業務上、英語力は必須ですが、遜色ありません。

庄司君は入社3年ですが、自分の役割をしっかりと認識して信頼に足る人物です。周りの人との関係も良く、人間的にも素晴らしいと頼もしく感じています。人的ネットワークをさらに拡げて、上司である私のこれまでの経験をしっかりと受け継いで、さらに飛躍して欲しいと期待しています。

アンケート企業 350 社における業務対応力についての評価 「チャレンジ精神があり、勤勉である」と 社会人基礎力とともに、業務対応力を高く評価

専攻科修了者は、大学学部卒業生との比較において、情報収集能力、問題解決能力に優り、行動力、協調性を評価され、データ処理、プレゼンテーションが上手く、チャレンジ精神があり、勤勉であると評価されています。専攻科では、長所をさらに伸ばし、弱点を克服するため、さらに教育システムを向上させていきます。
東京高専による 350 社を対象としたアンケート (右図 2007) より



大学院からの評価 「彼らは高い意識を持ち、研究の仕方をよく知っており、アクティブで積極性に優れています」

名古屋大学エコトピア科学研究所
大学院工学研究科電子情報システム専攻 丹司 敬義 教授

高専で学んだ学生の特長は優れた技術力にあります。専攻科修了者はその技術力に加え、「研究に対する高い意識」を併せ持っているように思います。大学の学部からあがった学生とは明らかに違うこの高い意識は、高専本科 5 年の 1 年間と専攻科の 2 年間、計 3 年間にわたる研究経験からきているのでしょう。大学 4 年の 1 年間だけ卒業研究を行った学生よりも、「研究の仕方」を良く知っています。私の研究室に入った専攻科修了者は、夜遅くまで熱心に研究に取り組むだけでなく、研究以外の面においても非常にアクティブで、積極性に優れていたことがとても印象に残っています。

マッキンゼー・アンド・カンパニーの報告

2012 年 12 月 5 日に米国の大手コンサルティング会社、マッキンゼー・アンド・カンパニー (McKinsey & Company) が発表した『教育から雇用へ解決に向けたシステムデザイン (Education to Employment: Designing a System that Works)』と題する報告書の中で、高専が紹介されました。当報告書は、世界各地で問題となっている若年層の高い失業率と即戦力となる技術者不足について、25 カ国における 100 以上の取組の調査、および 9 カ国において 8,000 人以上の教育機関、若者、雇用主に対するアンケート調査に基づき、その解決策を提案しています。卒業生の高い就職率を誇る高専と企業の強い関係について、教育から雇用へつなげる教育機関と雇用主の連携の一例として取り上げられています。
http://www.mckinsey.com/global_locations/asia/japan/ja

ワシントンポスト紙で紹介

2011 年 10 月 3 日付のワシントンポスト WEB 版は、「With workplace training, Japan's Kosen colleges bridge skills gap」と題する特集記事において、高専が、座学と実験実習の融合による実践的な教育システムを導入し、常にカリキュラムを見直すことにより、高校や大学がなし得なかった、産業界が卒業生に求める資質・能力と、学校教育のギャップの橋渡しに成功していると評価しています。
<http://www.washingtonpost.com/>

OECD による評価

“OECD Reviews of Tertiary Education: JAPAN, 2009”において、「高専は、卓越した高等教育システムであり、高い水準の技術者教育機関であるだけでなく、産業界のニーズに合った教育を行い、と同時に、経済的に恵まれない学生にとって“社会におけるより広いチャンスを得る道”としての機能も果たすなど、日本の高等教育を極めて効果的なシステムとして機能させている」と絶賛されました。



OECD 調査団に作品をプレゼンする専攻科生

「高等教育を極めて効果的で卓越したシステムとして機能させている」OECD 2009 レビュー

「教育から雇用へつなげる教育機関と雇用主の連携の解決策の一例である」マッキンゼー・アンド・カンパニー

「産業界が卒業生に求める資質・能力と、学校教育のギャップの橋渡しに成功している」ワシントンポスト紙

高 専

高専は、専門的知識と応用力を備えた実践的技術者の育成をめざしています。そのため講義科目だけでなく、実験・実習などの体験を重視した専門教育を実施しています。

高専+専攻科

高専「専攻科」は、高専本科で学んだ技術の知識と技能をさらに深めたい学生のために、自らの専門分野を深めると同時に、関連した専門分野へと対応能力を高める教育を実施します。

さらに専攻科では、高専本科での「卒業研究」をより深めることができる2年間の「特別研究」があります。高専本科で基礎的な工学を学び、そして、知識の幅を広げるとともに深め、さらにそれらを実践できる力を育成しています。

実験・実習、演習科目割合（開講単位数）

	講義・演習系科目	実験・実習系科目
工学系大学	84.7%	15.3%
高専専攻科	71.5%	28.5%
高専本科	68.2%	31.8%

中央教育審議会（答申）今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（2011年）より
高専専攻科のデータは、2012年度 高専機構調べ（45校/107専攻）

「専攻科」を目指す高専生

専攻科では、高専本科で学んだ技術力の上に、複合的視野を持った開発力を身につけられる創造的教育プログラムがあります。さらに、長期インターンシップや共同教育など、地元企業とより密接に連携した、高度の実践的教育プログラムがあります。

平均志願者倍率 2.2 倍に表されるように、多くの高専生が、「専攻科」への進学を希望しています。

修了生の学位取得について

専攻科は、5年間の高専本科での教育を基礎とした、さらなる2年間の学修課程で、専攻科での最終学年は、大学学部4年生と同じです。

専攻科での教育プログラムは、大学教育と同等の水準を有しており、教員団も大学教員と同等の資格、能力を有しています。

専攻科の課程を修了し、大学評価・学位授与機構の定めた条件を満たした者は、学士の学位が授与されます。

また、さらに研究を深めたい学生は、大学院に進学できます。

国立高専 専攻科の現況

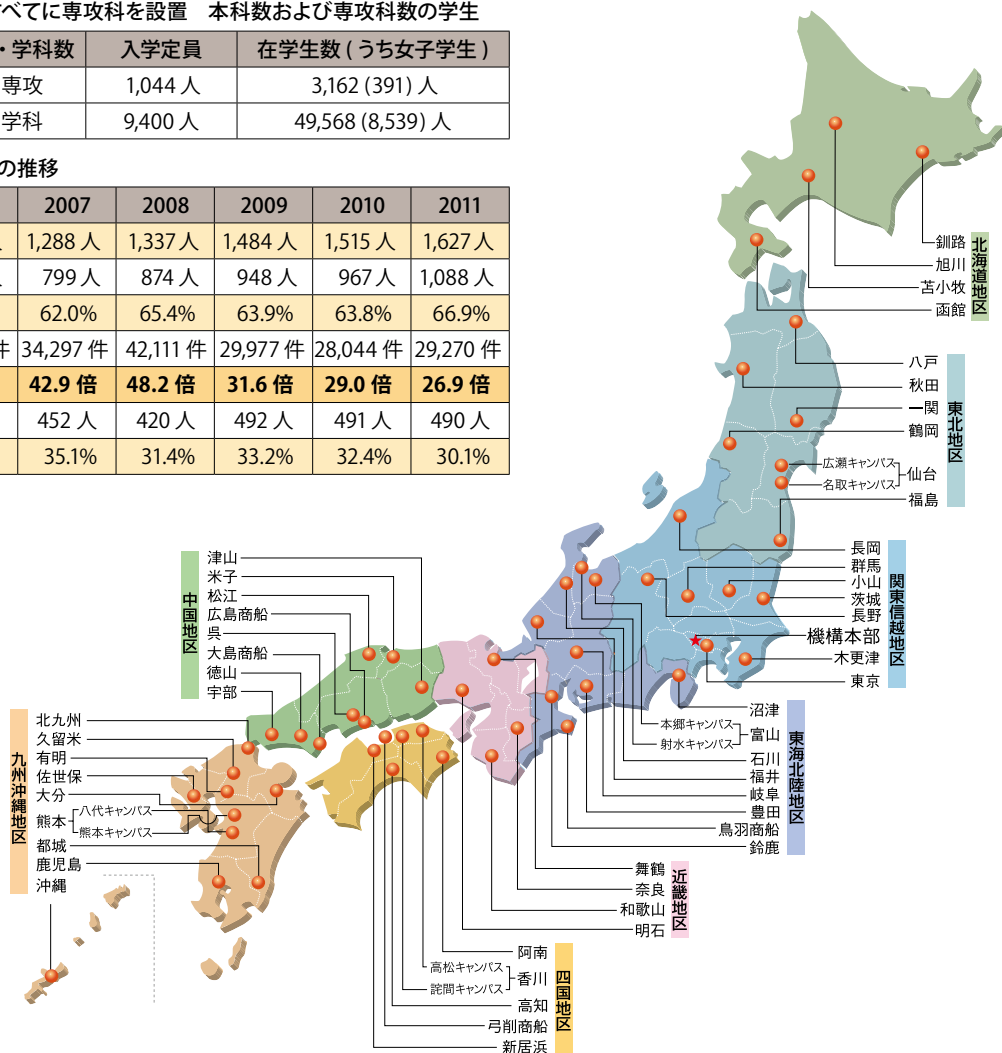
学校数：国立高専 51 校すべてに専攻科を設置 本科数および専攻科数の学生

	専攻科・学科数	入学定員	在学生数（うち女子学生）
専攻科	117 専攻	1,044 人	3,162 (391) 人
本 科	235 学科	9,400 人	49,568 (8,539) 人

専攻科修了生の進路状況の推移

区分	年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011
修了者数		1,265 人	1,288 人	1,337 人	1,484 人	1,515 人	1,627 人
就職者数		823 人	799 人	874 人	948 人	967 人	1,088 人
就職者の割合		65.1%	62.0%	65.4%	63.9%	63.8%	66.9%
求人数		28,181 件	34,297 件	42,111 件	29,977 件	28,044 件	29,270 件
求人倍率		34.2 倍	42.9 倍	48.2 倍	31.6 倍	29.0 倍	26.9 倍
進学者数		405 人	452 人	420 人	492 人	491 人	490 人
進学者の割合		32.0%	35.1%	31.4%	33.2%	32.4%	30.1%

国立高専 専攻科設置校（51 校）



リサイクル適性 (A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。